

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和3年10月分）

【製造業】

○製造業は、8月の鉱工業生産指数は前月比1.5%と上昇。ヒアリングでは、一部で増産の動きや今後も安定した受注が見込まれるとの声があった一方で、半導体や部品等の供給不足による生産活動の停滞や原材料価格の高騰による収益性の悪化を懸念する声は先月に引き続き多く聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、8月の鉱工業生産指数は、繊維工業と木材・木製品を除いて低下した。ヒアリングでは、EC販売等によって売上を伸ばしている企業の動きがあったものの、緊急事態宣言解除後も取引に動きが見られないとの声も聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、8月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比で71.9%増加した。ヒアリングでは、補助金を活用してコロナ後を見据えた設備投資をしているとの前向きな声も聞かれたが、金融機関からは、足元の取引先の設備投資の動きは新型コロナウイルス感染症を理由に延期していたものであり、積極的な設備投資は多くない、との指摘もあった。

【個人消費】

○個人消費は、9月の販売額は、大型家電量販店と横ばいとなったコンビニを除いて上昇した。ヒアリングでは、緊急事態宣言解除後に客足が増加したとの声があったが、自動車の納期の目途がつかず、新車注文のキャンセルが発生しているとの声も聞かれた。

【観光】

○観光は、8月27日から9月30日まで緊急事態措置区域に指定されたこと等に伴い、9月の客数は観光地、宿泊施設ともに、Go To トラベルの実施期間であった前年及びコロナの影響を受ける前の前々年を大幅に下回っている。ヒアリングでは、感染拡大の第5波で大きな影響を受けたものの、直近では修学旅行や小グループ旅行、ビジネス出張の需要に回復の兆しが見られつつあるとの声も聞かれた。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、9月の制度融資実績は、件数、金額ともに5ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からのヒアリングでは、為替や原油価格が取引先の収益性や資金繰りに与える影響を注視しているとの声も聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、9月の有効求人倍率は1.50倍と5ヶ月連続で上昇した。ヒアリングでは、雇用調整助成金を活用して従業員を休ませている企業もある一方で、今後の生産回復を見越した人材不足を懸念する声も聞かれた。

【景気動向】

8月の景気動向指数（一致指数）は前月比で3.1ポイント上昇し、9月の中小企業の景況感は同比で▲5ポイント低下した。